



# アイヌ文化を伝承し紹介する唯一の総合博物館

観光客でにぎわう北海道白老町のアイヌ民族博物館。  
 風光絶佳な地に建つこの博物館はアイヌの人びと自身が設立し、運営している。  
 多くの博物館と同様、経営状態が必ずしもよいとはいえない状況のなか、  
 その維持にむけたさまざまな努力がおこなわれている

北海道白老町。アイヌ語でシラウ・オ・イ(蛇の・たくさんいる・所)に由来するこの町は、古くから大きなコタン(アイヌの人びとの集落)があったことでも知られている。シラオイ・ウン・クル(白老びと)とよばれていた人びとが、その地で独自の文化を育みながら生活をしてきた。

## 博物館の設立

近代になって、交通の便利さもあってこの地を訪れる人びとは多く、コタンで伝統的なアイヌ文化に接していた。そうした経緯もあってか、その未裔たちはアイヌ文化の伝承・保存・調査研究・普及事業を目的に博物館を設立した。一九七六年のことで、当初は(財)白老民族文化伝承保存財団と称していたが、一九八四年に博物館を併設、一九九〇年には(財)アイヌ民族博物館と改称し、



博物館外観

名実ともにアイヌ文化を常に伝承し保存し紹介する、唯一の総合博物館となった。現在は

観光客が激減したから解散におこまれたという事態には絶対にはならない。

## 存続の意義

日本文化や日本の歴史・美術を紹介する国立の博物館は五館もある。琉球の芸能を紹介する国立の劇場も那覇にある。しかし、アイヌ文化を専門とする国立の博物館や劇場はひとつもない。アイヌは日本の先住民族である(ということ)を求める決議



チセ

展示施設としての博物館を中心に、野外博物館(コタンゾーン)には大小の規模の復元家屋(チセ)がならび、そのなかで館員たちが来館者にさまざまな伝統技術を紹介している。収蔵するアイヌ民族の文化財は五〇〇〇点におよび、さらにニブフなど近隣の先住民族の文化財などもある。

## 美しい景観と観光客への依存

アイヌ民族博物館はポロト(大きい湖)のほとり、背後には森林が連なるという風光絶佳の地に位置している。その景観はこの博物館の大きな宝物となっている。そして、隣接してイウォロ(伝統的生活空間)の再現計画により、あらたな景観づくりが進められている。ポロトをはさんだこの空間は诗情豊かな地として人気が高いが、しかし、その人気を

を国会はおこなった。

この風光明媚な地に建つ、アイヌ自身が設立した博物館。この博物館を維持するためのアイヌの人びとの努力に、わたくしたちは手をこまねいていいのだろうか。なお写真はアイヌ民族博物館の撮影である。



ムックリ(口琴)の体験



トンコリ(弦楽器)の学習



公演(口琴)



公演(舞踏)

佐々木利和  
 北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授  
 アイヌの人びとの歴史や民族誌を通時的に学んでいます。

必ずしも入場者の増加につながらないという悩みもまたある。  
 アイヌ民族博物館は、アイヌの人びとが自ら経営している。博物館の経営状態はどれもよいとはいえないが、この博物館は観光客が中心を占めているだけに悩みは深刻である。